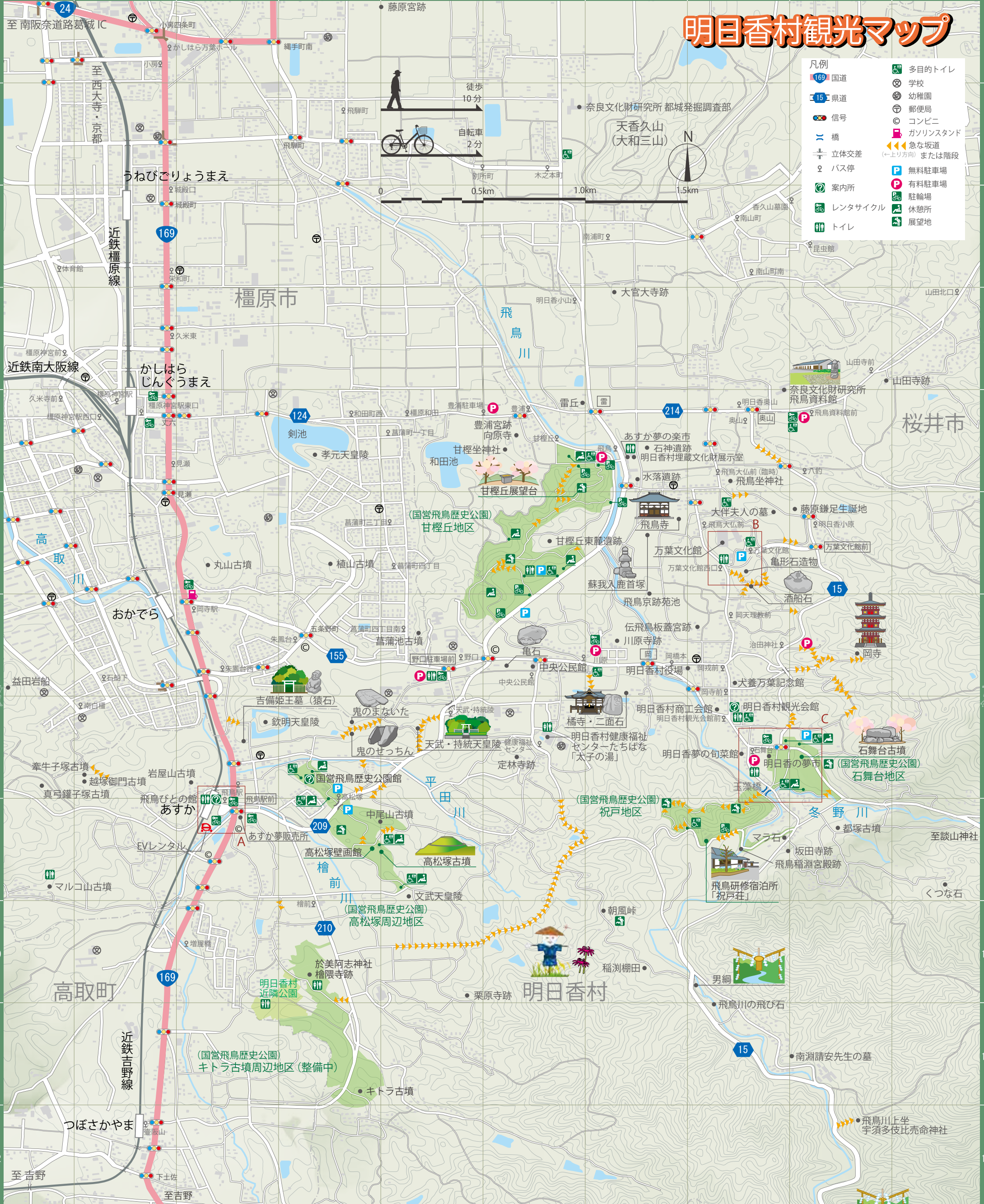


明日香村観光マップ

- 凡例
- 169 国道
 - 15 県道
 - 信号
 - 橋
 - 立体交差
 - バス停
 - 案内所
 - レンタサイクル
 - トイレ
 - 多目的トイレ
 - 学校
 - 幼稚園
 - 郵便局
 - コンビニ
 - ガソリンスタンド
 - 急な坂道 (←上り方向) または階段
 - 無料駐車場
 - 有料駐車場
 - 駐輪場
 - 休憩所
 - 展示地



だい かん だ い じ あ と

大官大寺跡 (4ーと)

国家が建立した官寺で、7世紀末から8世紀初め、持統朝から文武朝にかけて創建された。九重塔や大講堂を有し、壮麗な伽藍を誇る飛鳥の大寺院の一つだったという。平城遷都で奈良に移り大安寺となり、旧寺は和銅4(711)年、大火災で焼失、復興されなかった。今は土壇のみが残る。



あ ま か し に い ま す じ ん じ ゃ

甘檜坐神社 (5ーへ)

大字豊浦、大字雷の氏神で延喜式内社。『日本書紀』によれば允恭天皇4(415)年、政治の乱れを正そうと、古代の裁判である「盟神探湯」が、こゝで行われた。これは煮え立つ湯の中に手を入れるもので、正しい者は火傷をしなかったという。現在も毎年4月の第1日曜日に、神事として行われている。

か わ は ら で ら あ と

川原寺跡 (7ーと)

飛鳥寺、薬師寺、大官大寺とともに飛鳥四大寺に数えられ、平城京遷都後も飛鳥の地に残った。斉明天皇の冥福を祈り、息子の天智天皇が建立したのが創建。西金堂と塔を回廊が囲み、その北側に中金堂、さらに北側に講堂を置く「川原寺式」伽藍で、現在中門跡などが整備され、残る。 ■拝観料:300円 ■休業日:年中無休 但し、特別な事情がある場合を除く ■拝観時間:9:00～17:00 料金・休業日・拝観時間の詳細についてはお問合せ下さい。



か め い し

亀石 (7ーへ)

穏やかに微笑んだような表情が愛らしい、明日香を代表する謎の石造物。巨大な花崗岩に亀のような動物が彫られている。造られた理由はわかっていないが、中世の伝説によると、亀石は当麻の蛇の仕業で湖が干上がって死んでしまった亀を弔ったもので、亀は北向きから東向き、さらに現在の南西へと向きを変えており、亀が当麻の方向である西を向いたとき、大和国一帯が泥の海に沈むといわれている。



お に せ っ ち ん ・ ま な い た

鬼の雪隠・俎 (8ーに)

謎の石造物に見えるが、実は割貫式横口式石櫓の蓋石(雪隠)と床石(俎)。7世紀中頃に築造された長方墳かとみられている。形から鬼が付近を通る旅人を俎の上で料理し、雪隠(トイレ)で用を足したと伝えられた。



き ん め い て ん の う り ょ う

欽明天皇陵 (8ーは)

明治5年までは前方部に猿石が置かれていた前方後円墳。6世紀後半の築造で、全長約138m、後円部径約73m、前方部幅107mだが、実際には後円部が大きく削られていることから、築造当時は現在よりもかなり大きかったことが推察される。

け ん こ し づ か こ ふ ん

牽牛子塚古墳 (8ーろ)

巨大な凝灰岩をくりぬいた精巧な石櫓が圧巻の八角形墳。墳丘中央の横口式石櫓は厚さ0.5mの壁で二つに仕切られ、築造当時から二つの棺の埋葬を計画して造られた合葬墓。墳形から天皇あるいは天皇に準ずる人の墓と推察されている。



や ま こ ふ ん

マルコ山古墳 (9ーい)



牽牛子塚古墳、岩屋山古墳と同じ真弓丘にある多角形墳。周囲に排水施設もある。横口式石櫓の内面には漆喰が塗られ、漆塗木棺や金銅製六花形文様の棺金具、人骨、玉類などが発見された。その規模や構造ともに高松塚古墳と比較される。

こ ふ ん

キトラ古墳 (11ーに)

横口式石櫓内に描かれた天文図などの壁画で知られる円墳。壁画には天文図のほか、玄武、朱雀、白虎、青龍の四神像、獣頭人身の十二支像などが描かれており、飛鳥資料館や明日香村埋蔵文化財展示室で、復原模型を見ることができる。平成12(2000)年に特別史跡に指定。



※拝観料等の料金は平成27年1月現在のものです。予告なく変更される場合がございます。

【飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群】構成資産

レンタサイクルのご案内

明日香レンタサイクル／石舞台前・飛鳥駅前 他	☎0744-54-3919
レンタサイクル万葉／飛鳥駅前	☎0744-54-3500
古都レンタサイクル／飛鳥駅前	☎0744-54-4508
堂ノ前レンタサイクル／橋寺・川原寺跡前	☎0744-54-2395
近鉄サンフラワーレンタサイクル／橿原神宮前駅前	☎0744-28-2951
橋本サイクルセンター／岡寺駅前	☎0744-27-4663

あ す か み づ お ち い せ き

飛鳥水落遺跡 (5ーと)

中大兄皇子が造った日本初の時計として知られる漏刻(水時計)跡。飛鳥川の水を使って時を計っていたと考えられている。

そ が の い る か く び づ か

蘇我入鹿首塚 (6ーと)

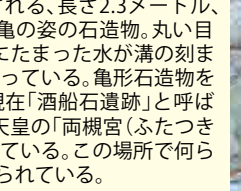
飛鳥寺の境内を西に抜けたところに立つ五輪塔。乙巳の変(大化の改新)のとき、飛鳥板蓋宮で中大兄皇子らに暗殺された時の権力者・蘇我入鹿の首がそこで飛んできたとか、襲ってきた首を供養するためにそこに埋めたともいわれる。



か め が た せ き ぞ う ぶ つ

亀形石造物 (6ーち)

斉明天皇の時代に造られたとされる、長さ2.3メートル、幅約2メートルのユーモラスな亀の姿の石造物。丸い目を持つ頭が取水口となり、甲羅にたまった水が溝の刻まれた尻尾から流れ出るようになっている。亀形石造物を含む丘陵一帯に広がる遺跡は現在「酒船石遺跡」と呼ばれ、『日本書紀』にみられる斉明天皇の「両槻宮(ふたつきのみや)」ではないかともいわれている。この場所で何らかの祭祀が行われたものと考えられている。



た ち ば な で ら

橋寺 (7ーと)

厩戸皇子(聖徳太子)生誕の地とされ、皇子建立の七ヶ寺の一つ。「四天王寺式」の壮大な伽藍配置を誇ったとされ、火災の記録から天武9(680)年には建立されていたことがわかる。建物は何度も焼失し、現在の伽藍は江戸時代のもの。境内に残る花形の柱穴の塔心礎は必見。また一つの石に善と悪の二つの顔をもつ二面石がある。 ■拝観料:350円 ■休業日:年中無休 但し、特別な事情がある場合を除く ■拝観時間:9:00～17:00



に め ん せ き

二面石 (7ーと)

橋寺境内にある、善面と悪面二つの顔をもつ石造物。姿かたちから、吉備姫王墓に置かれる猿石と同じ場所から掘り出されたと考えられる。無垢な顔つきの善面と、大きくゆがめられた悪面の対比が目を引く謎の石造物である。



で ん あ す か い た ぶ き の み や あ と

伝飛鳥板蓋宮跡(飛鳥京跡) (7ーち)

板蓋宮は、7世紀半ばの皇極天皇の宮殿で、中大兄皇子(天智天皇)らによって蘇我入鹿が暗殺された乙巳の変(大化改新)の舞台。ここには複数の宮殿遺構が重なっており、現在復元されている石敷広場や大井戸跡は上層の飛鳥浄御原宮のもの。



て ん む ・ じ とう て ん の う り ょ う

天武・持統天皇陵 (8ーほ)

天武・持統天皇が眠る八角形墳。文暦2(1235)年に盗掘にあったと記す『阿不幾乃山陵記』によれば、全長約7.5mの横口式石櫓の中には、金銅製の棺台の上に置かれた漆塗り木棺と、金銅製の外容器に銀製の骨蔵器があったといわれ、前者が天武天皇の棺、後者が持統天皇の火葬骨を納めたものと考えられている。

こ く え い あ す か ね き し こ う え ん か ん

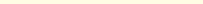
国営飛鳥歴史公園館 (8ーに)



た か ま つ づ か こ ふ ん

高松塚古墳 (9ーに)

昭和47(1972)年、石室に描かれた男女の群像図、四神図、星宿図などの極彩色の壁画で一躍注目を浴びた円墳。7世紀末から8世紀初めの築造で、直径約23m、高さ約3.5m。昭和48年には特別史跡に指定された。現在石室は解体、搬出され、壁画(国宝)が修復作業中であるが、壁画の模写や石槨模型は、隣接する高松塚壁画館で見ることができる。副葬品に海獣葡萄鏡などがある。



た か ま つ づ か へ き が か ん

高松塚壁画館 (9ーに)

高松塚古墳に隣接し、壁画発見当初の極彩色「飛鳥美人」をはじめ、貴重な国宝壁画全体を再現。3カ国語解説モニター設置、古墳版築層の断面の一部を実物標本として公開展示し、古墳の全貌をわかりやすく紹介。 ■入館料:250円 ■休館日:年末12月29日～年始1月3日 ■入館時間:9:00～17:00



あ す か み ら ま い ぞ う ぶ ん か ざ い て ん じ し つ

明日香村埋蔵文化財展示室 (5ーと)

明日香村文化財課が発掘調査を行った遺跡の出土品等を展示・紹介。

■入館料：無料
■休館日：年末年始
■入館時間：9：00～17：00



あ す か み ん ぞ く し り ょ う か ん

明日香民俗資料館 (6ーち)

明日香村の歴史や年中行事の紹介、生活様式や民具・伝承等に関する資料を展示。

■入館料:無料
■休館日:毎月曜日・年末年始



さ か ぶ ね い し

酒船石 (6ーち)

江戸時代の国学者・本居宣長の『菅笠日記』にも登場する、明日香を代表する謎の石造物。平らに加工された表面には、円、隅丸方形、楕円の窪みが彫られ、それらを直線で溝が結ぶ。酒造りに用いたと伝わることからこの名が付いたが用途はいまだにわかっていない。

隅丸方形、楕円の窪みが彫られ、それらを直線で溝が結ぶ。酒造りに用いたと伝わることからこの名が付いたが用途はいまだにわかっていない。

あ す か き ょ う あ と え ん ち

飛鳥京跡苑池 (6ーと)

飛鳥浄御原宮内郭の北西で検出された庭園の池の遺構。池は急勾配の石積みで護岸がなされ、底には石が敷き詰められていた。池の南側には、高さ1.65mの噴水用の石造物が設置され、導水用石造物である出水酒船石と組み合わせることがわかった。



お か で ら

岡寺 (7ーり)

正式名称は龍蓋寺。境内には龍を閉じ込めたという龍蓋池が残る。飛鳥時代末から奈良時代初めの創建と伝えられ、奈良時代の傑僧・義淵が天武天皇の皇子・草壁皇子宮跡に建立したという。本尊の如意輪観音菩薩坐像(重要文化財)は日本最大の塑像。春には3000株のシャクナゲが境内を彩る。 ■拝観料:300円 ■休業日:年中無休 但し、特別な事情がある場合を除く ■拝観時間:3月1日～11月30日 8:00～17:00 12月1日～2月末 8:00～16:30



な ん と あ す か

南都明日香ふれあいセンター

い め か い ま ん よ う き ね か ん

犬養万葉記念館 (7ーち)

『万葉集』と明日香村をこよなく愛し、景観保護のために尽力された、明日香村の名誉村民でもある故犬養孝氏(文化功労者)を顕彰した館。全国の万葉ファンの情報発信基地でもあり、蔵書を閲覧しながらゆっくりくつろげるカフェも併設。 ■入館料:無料 ■休館日:毎水曜日(祝祭日と重なる場合は翌日)年末年始 ■入館時間:10:00～17:00



い し ぶ た い こ ふ ん

石舞台古墳 (8ーり)

日本最大級の石室をもつ、飛鳥路を代表する古墳。7世紀初めの築造で、1辺約55mの方墳だったが、早い時期に墳丘の盛り土がはがされ、巨大な横穴式石室がむきだしになってしまった。露出した石は約30個、総重量は2300tと推定されている。被葬者は不明だが、蘇我馬子の墓の可能性が高いといわれている。昭和27(1952)年には国の特別史跡に指定。 ■入場料:250円 ■休場日:年中無休(但し、特別な事情がある場合は除く) ■入場時間:8:30～17:00



な か お や ま こ ふ ん

中尾山古墳 (9ーに)

かつては「石墓」と呼ばれ、墳丘を石が覆っていた八角形墳。文武陵とも考えられている。横口式石櫓の内面には朱彩も施されている。

み や こ づ か こ ふ ん

都塚古墳 (9ーり)

大字阪田小字ミヤコに所在する。正月元旦に金鳥が鳴く伝説があり、別名金鳥塚とも呼ばれている。石舞台古墳から南東に約400mの距離に位置し、横穴式石室には、凝灰岩製の家形石棺がある。これ以外にも棺台が確認されていることから、木棺による追葬も考えられている。出土遺物には土師器・須恵器・刀子・鉄鏃・鉄釘・小札などがある。



も ん む て ん の う り ょ う

文武天皇陵 (9ーほ)

高松塚古墳の南に位置し、天武天皇と持統天皇の孫にあたる文武天皇がまつられている円墳。しかし天皇陵とされる古墳に八角形墳が多く、文武天皇が火葬にされたことから、中尾山古墳の方が有力ではないかと見られている。

な ら ぶ ん か ざ い け ん き ゅ う じ ょ あ す か し り ょ う か ん

奈良文化財研究所 飛鳥資料館 (5ーち)

主に6～7世紀末の飛鳥地方の歴史・文化をわかりやすく解説。飛鳥ゆかりの出土品や復元模型なども展示。

■入館料:270円
■休館日:毎月曜日(祝祭日と重なる場合は翌日)年末年始 但し、特別期間中は無休
■入館時間:9:00～16:30



あ す か に い ま す じ ん じ ゃ

飛鳥坐神社 (5ーち)

『日本書紀』によれば、朱鳥元(686)年にはすでに4座が祀られていたことがわかる延喜式内社。毎年2月の第1日曜日に行われる「おんだ祭」は、天狗とお多福が演ずる夫婦和合の所作が笑いを誘う。子宝、安産、縁結びに御利益があるといわれている。

な ら け ん り つ ま ん よ う ぶ ん か か ん

奈良県立万葉文化館 (6ーち)

万葉集を中心とした古代文化に関する総合文化施設。館内には日本画展示のほか、万葉図書・情報室、ミュージアムショップが充実し、パンカフェも併設。 ■観覧料:600円 ■休館日:毎月曜日(祝日と重なる場合は翌平日)年末年始・展示替日 ■入館時間:10:00～17:30



あ す か い け ー こ う ぼ う い せ き

飛鳥池工房遺跡 (6ーち)



の製作用具などが出土。日本最初の銅製貨幣とされる富本銭もみにつかった。管理地区からは天皇家に関わる木簡も多数みつっている。

